

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	□ザリオ発達支援センター ふたば保育園（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2025年 8月 1日 ～ 2025年 9月 1日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数) 9名
○従業者評価実施期間	2025年 8月 1日 ～ 2025年 9月 1日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 3日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか、の設問に全保護者様から「はい」とご回答いただきました。	保育室内の構造化を図る目的で、パーテーションの使用し、室内を仕切りました。 利用されているお子さんもどの目的で使用する部屋かがわかりやすくなり、集中しやすい環境となったと思います。 また、保育室内の構造を変えた際には、保護者の皆様にも見ていただく機会を設け、目的など説明させていただきまし	安全で集中できる環境を整備するため、パーテーションの補修や室内の環境整備を行っています。 また、絵カードでの一日の予定の掲示の継続により、お子さんたちが今後の行動の見通しがつき、療育に取り組みやすい環境を整えていきます。
2	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧に説明しています。 利用開始後も保護者会を開催したり、個別に困りごとに対する面談を行い、保護者様との連携を図っています。	保護者様が安心してお子さんを預けられるよう、保護者様への説明はしっかり行うよう心がけております。 また、日頃からお子さんの状態を伝え合い、発達の状況や困りごとについて情報共有をさせてもらっています。	必要があると判断したときは、心理士や相談員など専門スタッフにつなげていきます。
3	法人内の医療機関との連携や看護師が常駐していることにより、持病のあるお子さんも安心して利用できる療育環境となっています。	医療機関との協力関係を保ち、持病のあるお子さんの情報共有を医師・看護師間で行うことで、食物アレルギーやてんかん発作を持つお子さんの緊急時、怪我などの対応も迅速に行えるようにしています。	保護者さまから頂いた情報をもとに、地域の医療機関とも連携をとれる環境を整えていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	行事の際、放課後等デイサービス利用中のお子さんとの交流は持てましたが、保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありませんでした。	一日の療育のスケジュールの中で地域交流の時間確保が難しく、□ザリオ福祉まつりの機会のみとなってしまいました。	来年度は旭市こども発達センターとの交流会を計画しています。その他にも近隣の保育園との交流も計画していきます。
2			
3			